

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年8月10日
【四半期会計期間】	第94期第1四半期（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）
【会社名】	岡谷電機産業株式会社
【英訳名】	OKAYA ELECTRIC INDUSTRIES CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 山田 尚人
【本店の所在の場所】	東京都世田谷区等々力六丁目16番9号
【電話番号】	03(4544)7000(代表)
【事務連絡者氏名】	上席執行役員管理本部副本部長 黒崎 政道
【最寄りの連絡場所】	東京都世田谷区等々力六丁目16番9号
【電話番号】	03(4544)7000(代表)
【事務連絡者氏名】	上席執行役員管理本部副本部長 黒崎 政道
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第93期 第1四半期連結 累計期間	第94期 第1四半期連結 累計期間	第93期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年6月30日	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (千円)	3,204,708	3,038,116	12,409,209
経常利益 (千円)	46,021	142,800	323,010
親会社株主に帰属する四半期 純利益又は親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失() (千円)	76,673	88,486	753,509
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	87,471	389,045	1,227,344
純資産額 (千円)	9,990,869	8,085,648	8,586,505
総資産額 (千円)	14,049,564	12,314,175	12,989,347
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期(当期)純損失 金額() (円)	3.43	3.96	33.71
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	71.1	65.7	66.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 売上高には、消費税等は含まれていない。

3. 第94期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。なお、第93期及び第93期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用関連会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間における世界経済につきましては、米国経済の足踏みや中国経済の減速、さらには英国のEU離脱決定による欧州経済の先行き懸念等、様々な課題が指摘されています。また、国内経済も依然として不透明感が拭えない状態が続いています。

このような経済環境のなか、当社は本年4月に代表取締役の交代を含む、組織及び役員体制の変更を実施しました。新体制のもと、当面の目標として「車載産業への参入」を掲げ、担当部署として経営企画室を新設して実現に向けたロードマップの策定を開始しました。

当第1四半期連結累計期間の販売面につきましては、中国及び東南アジアにおけるエアコン向け及びO/A機器向け等で一定の売上を確保したものの、国内における産業機器向けの不振により、全体としては前年同期よりも減少しました。

生産面につきましては、生産技術力・製品開発力の強化に努めており、中国工場の自動化、スリランカ工場の生産能力増強によるコストダウンを推進しています。また、本年10月には埼玉事業所内にて新工場が稼働し、最新の自動化設備によりサージ関連製品の生産を開始する予定です。

なお、コンデンサの取引に関して、米国においては競争法規制当局による調査は終了しており、また集団民事訴訟については原告側と和解が成立し、現在管轄裁判所の承認手続き中であります。その他の複数の国では、競争法規制当局による調査が継続中であり、カナダにおいては集団民事訴訟が提起されています。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は30億38百万円（前年同期比95%）、営業利益は84百万円（同286%）、経常利益は1億42百万円（同310%）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は88百万円（前年同期は76百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績は下記のとおりです。

ノイズ関連製品

産業機器向けは不振であったものの、エアコン向けが好調であり、ほぼ横ばいで推移しました。その結果、ノイズ関連製品の売上高は20億6百万円（前年同期比100%）となりました。

サージ関連製品

屋外LED照明用電源向けやエアコン向けは好調でしたが、産業機器向けの受注減少が影響し、サージ関連製品の売上高は5億17百万円（同98%）となりました。

表示関連製品

照明用LED等が堅調でしたが、米国における医療機器向けの減少により、表示関連製品の売上高は3億89百万円（同75%）となりました。

センサー関連製品

ロボット用モーター向けは増加しましたが、時計指針補正用等が減少しました。その結果、センサー関連製品の売上高は1億25百万円（同83%）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1億5百万円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況について重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成28年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	22,921,562	22,921,562	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株である
計	22,921,562	22,921,562	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日	-	22,921,562	-	2,295,169	-	1,157,189

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 569,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 22,316,000	223,160	
単元未満株式	普通株式 35,662		
発行済株式総数	22,921,562		
総株主の議決権		223,160	

(注)「完全議決権株式(その他)」には、(株)証券保管振替機構名義の株式が2,300株(議決権の数23個)含まれている。

【自己株式等】

平成28年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
岡谷電機産業株式会社	東京都世田谷区等々力 六丁目16番9号	569,900		569,900	2.49
計		569,900		569,900	2.49

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,191,399	2,748,444
受取手形及び売掛金	3,853,421	3,774,963
商品及び製品	574,408	514,188
仕掛品	307,056	346,475
原材料及び貯蔵品	544,575	531,739
繰延税金資産	194,060	194,617
その他	279,500	286,476
貸倒引当金	12,783	11,906
流動資産合計	8,931,639	8,384,999
固定資産		
有形固定資産	2,184,676	2,292,301
無形固定資産	13,949	15,151
投資その他の資産		
投資有価証券	1,670,780	1,346,557
繰延税金資産	99,426	187,516
その他	88,876	87,650
投資その他の資産合計	1,859,082	1,621,723
固定資産合計	4,057,708	3,929,176
資産合計	12,989,347	12,314,175

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	971,996	1,076,145
短期借入金	454,550	233,647
未払法人税等	32,027	70,345
訴訟関連引当金	90,800	77,613
未払金	1,042,988	833,935
その他	469,950	456,670
流動負債合計	3,062,312	2,748,357
固定負債		
長期借入金	466,468	599,702
環境対策引当金	12,728	12,728
退職給付に係る負債	617,983	623,235
再評価に係る繰延税金負債	214,903	214,903
資産除去債務	7,505	7,505
その他	20,941	22,095
固定負債合計	1,340,529	1,480,169
負債合計	4,402,842	4,228,527
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,295,169	2,295,169
資本剰余金	1,861,046	1,861,046
利益剰余金	3,384,805	3,361,533
自己株式	121,356	121,410
株主資本合計	7,419,665	7,396,340
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	557,879	362,572
土地再評価差額金	496,439	496,439
為替換算調整勘定	147,571	137,949
退職給付に係る調整累計額	35,050	31,755
その他の包括利益累計額合計	1,166,839	689,307
純資産合計	8,586,505	8,085,648
負債純資産合計	12,989,347	12,314,175

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	3,204,708	3,038,116
売上原価	2,500,050	2,346,713
売上総利益	704,657	691,402
販売費及び一般管理費	675,250	607,284
営業利益	29,406	84,118
営業外収益		
受取利息	11,494	2,578
受取配当金	24,273	21,762
為替差益	5,585	57,293
その他	2,936	3,088
営業外収益合計	44,290	84,723
営業外費用		
支払利息	1,533	2,083
持分法による投資損失	24,303	22,533
その他	1,838	1,424
営業外費用合計	27,675	26,041
経常利益	46,021	142,800
特別利益		
固定資産売却益	-	1,191
特別利益合計	-	1,191
特別損失		
減損損失	-	13,805
投資有価証券評価損	-	1,759
訴訟関連損失	293,395	-
工場再構築費用	347,075	-
特別損失合計	140,471	5,565
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失()	94,449	138,426
法人税等	17,776	49,940
四半期純利益又は四半期純損失()	76,673	88,486
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	76,673	88,486

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	76,673	88,486
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	99,035	195,306
繰延ヘッジ損益	4,545	-
為替換算調整勘定	68,330	285,520
退職給付に係る調整額	1,325	3,295
その他の包括利益合計	164,145	477,531
四半期包括利益	87,471	389,045
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	87,471	389,045

【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間より適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更している。

なお、これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微である。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算している。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっている。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用している。

(四半期連結損益計算書関係)

1 減損損失

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)
 表示関連事業に係る固定資産の減損損失を特別損失に計上している。

2 訴訟関連損失の内容

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)
 当社グループのコンデンサの取引に関する複数の海外の競争法規制当局による調査への対応及び米国における集団訴訟への対応のための弁護士報酬等である。

3 工場再構築費用の内容

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)
 当社埼玉事業所の新工場建設に伴い発生する現有設備の減損損失及び解体費用である。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
減価償却費	114,700千円	67,027千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)
 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	111,760	5	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)
 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	111,757	5	平成28年3月31日	平成28年6月24日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ノイズ 関連製品	サージ 関連製品	表示 関連製品	センサー 関連製品			
売上高							
外部顧客への売上高	2,008,528	526,936	517,871	151,371	3,204,708	-	3,204,708
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	2,008,528	526,936	517,871	151,371	3,204,708	-	3,204,708
セグメント利益 又は損失()	163,853	110,033	81,458	33,502	225,930	196,524	29,406

(注)1.セグメント利益又は損失の調整額は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等である。

2.セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ノイズ 関連製品	サージ 関連製品	表示 関連製品	センサー 関連製品			
売上高							
外部顧客への売上高	2,006,366	517,046	389,098	125,604	3,038,116	-	3,038,116
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	2,006,366	517,046	389,098	125,604	3,038,116	-	3,038,116
セグメント利益 又は損失()	128,949	139,524	49,132	27,659	247,002	162,884	84,118

(注)1.セグメント利益又は損失の調整額は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等である。

2.セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	3円43銭	3円96銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額() (千円)	76,673	88,486
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	76,673	88,486
普通株式の期中平均株式数(千株)	22,352	22,351

(注)当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。なお、前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2【その他】

該当事項なし。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8月10日

岡 谷 電 機 産 業 株 式 会 社

取 締 役 会 御 中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 草野 和彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岩瀬 弘典 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている岡谷電機産業株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、岡谷電機産業株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていない。